

童

2016年9月30日

秋雨前線！！ 本日に雨が続き毎日です。梅雨時並みに、雑草が元気に伸びています。例年なら、夏休み明けは、草刈りは1度位なのに、もうすでに3回ほど。雨の力はすごいですね。ソーラーパネルの発電量も、8月に比べると約3分の2程。それだけ お日様の登場が少なかったのでしょう。

それでも、今年の秋は、どんぐり、栗、きのこなどの山の恵みがすごいですね。また、夏野菜も相変わらず息長く続いています。栗のいがが、連日地面を覆っていきます。連日、栗の木の下には子供たちがたむろしています。雑木林を歩いても、遠くから地面がいがで光っているのが見えるほどです。どんぐりがたくさん落ちるといことは、山にもたくさんあるので、クマは里には下りてこないとか。

ここにきての雨で、キノコもあちこちによきによきと生えてきています。食用も毒キノコも様々ですが、連日の雨で、室内にはえてこないか心配です！？

今週は、栗は一段落（稲刈り用お餅の栗ペースト用）して、いよいよ枝豆に移行しました。大豆も豊作で、一番勢いのある作物。連日、収穫して、ガンガーで茹でて食べています。お弁当のおかずではなく、おやつに枝豆のみを食べています。きっとビール党にはうらやましい大量の贅沢な枝豆。それも最高の味わいです。

ガンガーのかまどと食堂が一体となっているお陰で、子供たちの収穫から口に入るまで、一貫して子供が見える、作る、味わう、すべてを体感できる空間に感謝です。さて、これからも、どんな秋の味わいが展開されるか楽しみです。



【芸能ニュース】

高畑淳子知っていますか。息子の高畑祐太という俳優が、強姦致傷容疑で逮捕されたというニュースです。青ちゃんは、もちろんそんな母子の俳優なんて知りませんし、興味もないのですが。ただ、新聞の週刊誌のPRの片隅に、「難しい男の子の育て方」とか「仲のよい兄弟のような親子」とか「過保護が服着てしゃべっている」とかいうセルフが気になり、ちょっと調べてみた訳です。母親が、息子逮捕の謝罪会見では、言い訳や同情や自己保身が多く、被害者への落とし前や息子への怒り（しつけとしての 息子は22歳ですが）がなく、ただただ泣いたりしているだけ。

これらを見て、様々な著名人からの論評やコメントが寄せられている中で、印象に残ったコメントがこれです。同じ年齢の息子を持つ母親 上沼恵美子さんのコメントから。関西で有名なテレビの人らしい。

「あれ親ちゃう。ちょっとなんか顔色見ながら、腫物触るような育て方をしてきたんだろうなっていうのが予想できましたね。お母さんと息子さん仲いいのはいいんですけど、兄弟みたいなのはいいな、なんてとんでもないですよ。兄弟違います。兄弟じゃありません。親は親ですから。アカンかったら、張り倒さなアカンよ。それをしなかったなだと思っんです。息子は知ってるんです。張り倒されないことを。楽な方 楽な方 楽な方を選んできたんですよ。」

だいたい高畑さんに限らず、みんな、自分の子供の顔色見てね、ハラハラしながら育児しているわ。あれは分からない。顔がひん曲がるくらいバシッとやらないと。いま、ほんと殴らないね。私なんかどんだけ殴られたというか、お尻をほうきで叩かれたか。サザエさんみたいになったわ。パンパンパン叩かれましたね 母に。……」

張り倒す バシッとやるなんて聞くと、若い親御さんはかなり反発されると思いますが、エネルギーと覚悟を持ってしつけとしてきちんと人の道を教える親の一つの方法だと 考えてもらえばいいと思います。それだけ、しつけをキチンとその場で立ち止まって教えるチャンスを逸しないこと。なーなーで済ませない大切さだと思います。

私が同感するのは、あまりにも子供中心に、子供のご機嫌を取りながら ご機嫌を伺いながら、顔色反応を見ながら、子供が喜ぶからと、子供が寂しく悲しくならないようにと、その場その場にエネルギーをかけている育児傾向が強いように感じられることです。

「お休みに遊びに行くのは、子供が喜ぶ所。」「今晚の食べ物、子どもの好きなメニュー。このおかずは、あまり子供がよろこばないんだよね、食べてくれないの。私は好きで食べてほしいんだけど」「この服、出しても着てくれないんだよね、せっかく買ってあげたのに」「このおもちゃで遊んでくれないの、友達も持っているのと同じじゃないといやだというの」「子供がパパや祖父母じゃダメで、私じゃなきゃダメだというの」「みんな行くのに、うちだけ行かなきゃ、子供が悲しい思いをするから、無理してでも行かなきゃ」「パパは喜ぶかもしれないけど、子供は退屈だから、それは無理」……。こんな会話はよくありますね。「おいおい、俺が家庭の大黒柱。子供じゃなくて、俺が中心じゃいけないの!？」 こんな声は 聞こえてきませんか。

子供への声かけのポイントは「これからすべきことを言うだけ」とセミナーなどで言っています。木登りで予想以上に高い所まで登ってしまった時 「落ちたら危ないから気を付けてね」と言わないで「しっかりつかまちなさい」と言うこと。車道飛び出しの危険の時「惹かれるから出てはいけません」ではなく「飛び出さな」ですよ。子供が机の上に乗っている時「机の上に乗っていいんだっけ? 乗っちゃいけないよね」ではなく「降りなさい!」ですよ。

皆が座って絵本を見ている時や座って話を聞いている時に立ち上がって歩いたり遮ったりする時「皆そんなことしてないよ、皆見えないよ」ではなく「座りなさい」ですよ。危ないところや立ち入り禁止の場所に入っている時「そんなとこに入っていないのかな、ここに入ってはいけないと思うよ。ママはそう思うよ。」ではなく「出なさい」ですよ。

更にこんなエピソードも。勝手に危険車両に乗っている状況で「これに乗ってもいいですか?」（既に乗っているんですけれど）「危ないから降りてくださいね」「先生がダメだって言ってるよ」 まず、親が乗る前に子供に親としての判断を。先生が駄目じゃなくて親が言ってくださいよ。親は恨まれたくないから。先生が恨まれ役!?

社会や集団やグループやチームが平和で美しく輝くのは、秩序が守られていつ時ですね。未来に向かう子供たちが平和で秩序ある暮らしができるように育てるには、秩序すなわちしつけが一番の親からの大切な贈り物だと考えます。t 秩序ある子どもは、可愛がられるし、社会から歓迎されます。しつけは、自己中心的な欲求を持つ子供の理不尽な要求と、そうはいかないコミュニティの人間社会のルールとの闘いです。子供中心子供尊重という間違った意味で子供の要求に答えていたらどうなるでしょう。理不尽な要求をする子供の顔色を伺っていたら。私たちは、このご機嫌をとる子供の下部でもない、ただただ楽しく過ごす軽い友達ではありませんね。秩序ある美しく感動がある暮らしを体験して過ごす術を知っている人生の先輩である親ですね。それだけに、子供に伝える、教えることは、そんな場合にどうしたらいいかの術をシンプルに教えるだけ、我が家はこうです、子供の顔色を見るのではなく、秩序、美しさという顔色を見て行くことが、素晴らしいと思います。

子供が家庭で殿様お姫様扱いされ、ご機嫌を伺われながら育てると、当然親への感謝（誰に育てられたんだ!!）もなく、人生の羅針盤も備わらないことでしょう。更に 本当の真の親の存在、愛も知らない人間に。これだけは避けたいです。せめて、子供中心の軸に、夫婦大人社会の軸に切り替えていくことが簡単かも。まず夫婦愛が見本!?